



Magazine

hat | 橋本総業ホールディングス 2026.03 VOL.28

第40回テニス日本リーグ決勝トーナメント 女子が圧巻の3連覇



成長した『橋本総業ホールディングス』のメンバーが完勝で3連覇を達成

2月13日から15日にわたり、横浜国際プールで実業団の団体戦「テニス日本リーグ 決勝トーナメント」が開催された。女子は2チームが出場し、優勝候補筆頭だった『橋本総業ホールディングス』が3連覇、『橋本総業』は昨年同様の3位となった。

『橋本総業ホールディングス』の小畑沙織監督は、「勝って当然と思われているプレッシャーの中で、それぞれがツアーを回って素晴らしい経験をしてきたことで、より勝利にこだわってプレーができたと思います」と、選手たちの日々の上達を優勝の要因に挙げた。5人のメンバーは年々実力を上げており、中でも坂詰姫野はシングルスで、小堀桃子はダブルスで今年の全豪オープン本戦に初出場している。

シングルス2の岡村恭香も昨年の全日本選手権を初制覇しメンタル面でも大きく成長した。今までは緊張で日本リーグでは思うようにプレーできず勝利で貢献できずにいたが、今回は決勝で第1セット3-4のサービスゲームでピンチを切り抜けると、流れをつかんでチームに先勝をもたらした。「自分が勝っての優勝は何倍もうれしい」と優勝を手放しで喜んだ。

王手がかかったシングルス1の坂詰は、「気負っていた」こともあり出だしは良くなかった。第1セットで2-5とリードされるが、「色々な経験を積んできたのだからやれる」という思いは根底にあり、ふっと肩の力が抜けたことで8ゲームを連取して勝利を挙げた。優勝は決まったものの、ダ

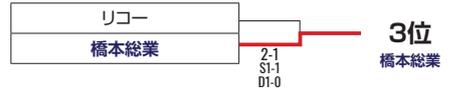
ブルスの小堀桃子と森崎可南子のペアは、「3-0で勝ちたい」と気持ちを緩めることなく全勝で実力を見せつけて3連覇を達成した。

圧倒的な勝利をもたらした反面、スケジュール面でツアーと日本リーグの両立には苦勞した。予選リーグではコンディ

女子決勝トーナメント



3・4位決定戦



橋本総業ホールディングス

女子結果

準決勝	橋本総業ホールディングス	3-0	リコー
2月14日(土)	S1 坂詰 姫野	4-6 6-3 10-4	坂谷 里音
	S2 岡村 恭香	6-2 6-1	大川 美佐
	D 小堀 桃子/森崎 可南子	6-3 6-3	谷井 涼香/富永 菜
決勝	橋本総業ホールディングス	3-0	島津製作所
15日(日)	S1 坂詰 姫野	7-6(5) 6-0	加治 遥
	S2 岡村 恭香	6-4 6-1	山崎 郁美
	D 小堀 桃子/森崎 可南子	7-5 6-3	桑田 寛子/鈴木 渚左

ションが整わない選手を考慮して、ダブルス巧者の森崎が初めてシングルスに出場したりと、ベストメンバー＆オーダーで戦えないこともあった。それでも全勝で頂点に立ったのは、「チーム力の高さ」だと全員が口を揃える。このメンバーがこれからも成長していけば、連覇はまだ続きそうだ。

島津に肉薄するも惜しくも3位

結果は前回と同じ3位だが『橋本総業』女子チームには変化があった。若手が3名加入し、大きな壁だった準決勝の島津製作所との対戦で、勝利の可能性を見せた。

シングルス2の小林ほの香は競った末に第1セットを落としたが、そのまま負けるのではなく第2セットを奪い返す。接戦の末に敗れたが勝利への強い気持ちがつながった。新加入でプロ1年目の吉本菜月は、シングルス1としてランキングでは上の相手と対戦。昨年ITFの大会で戦った時には敗れているが、「最後まで打って決められた。ミスが出そうな場面でも堅くプレーができた」と、前回の対戦から学び勝利をつかみ取った。希望を託されたダブルスには今大会で引退する大前綾希子が若手の北原結乃をリードして臨んだが、あと一歩で決勝進出の悲願は成らなかった。井上明里監督は、「ランキング的には圧倒的な差がある中、全体的に見ればうまくいった」と善戦を認めながらも、「だからこそ、ここで勝つてもっと上に行きたかった」と悔しがった。

初めて日本リーグに参戦した吉本は、「応援がすごくて楽しく試合ができました」と緊張も応援の力で吹き飛んだと言う。お互いにアドバイスをするなどメンバーの仲は良いようで、若いメンバーが切磋琢磨して成長することが期待される。



3連覇を祝して「3」のポーズで。森崎可南子（右から2番目）は最高殊勲選手賞を受賞



岡村恭香はとうとう決勝で勝利を挙げた



坂詰姫野は調子が悪い中、シングルス1の責務を果たす



小林ほの香は踏ん張って接戦に持ち込んだ



吉本菜月はパワフルなショットで値千金の勝利でチームを牽引



大前綾希子／北原結乃組は善戦するも、あと一歩及ばなかった



高校生の上村陸実が新加入。可能性を感じさせるプレーを披露

		橋本総業		女子結果	
準々決勝		橋本総業 2-1		フクシマガリレイ	
2月13日	S1	吉本 菜月	6-2 6-1	高橋 礼奈	
(金)	S2	小林 ほの香	6-0 6-2	吉川 ひかる	
	D	北原 結乃／上村 陸実	6-2 6-7(5) 6-10	木塚 有映／堺 愛結	
準決勝		橋本総業 1-2		島津製作所	
14日	S1	吉本 菜月	6-4 6-1	加治 遥	
(土)	S2	小林 ほの香	3-6 6-0 3-10	山崎 郁美	
	D	大前 綾希子／北原 結乃	5-7 5-7	桑田 寛子／鈴木 渚左	
3位決定戦		橋本総業 2-1		リコー	
15日	S1	吉本 菜月	3-6 3-6	板谷 里音	
(日)	S2	小林 ほの香	6-1 6-0	大川 美佐	
	D	大前 綾希子／上村 陸実	6-3 7-5	原口 紗絵／谷井 涼香	



若手主体となった『橋本総業』チーム。今回で大前が引退し、今後も新メンバーが加わりそうだ



混戦の男子は準優勝と奮闘

新メンバーが加入した男子チームは2年ぶりに決勝の舞台に立ち、イカイとの対戦では3試合とも激戦となった。シングルス2の福田創楽は、「しっかり合わせてきた」と言うとおりの好調で、イカイの徳田廉大に対しても一歩も引かない。1、2セットともキープが続いてタイブレークへもつれる激戦となる。福田は足がつっていたが、気合いでカバーしてファイナル10ポイントタイブレークを制して貴重な金星を挙げた。

シングルス1は外国人選手対決で、この試合もファイナルセットに突入。相手選手の強力なサービスに苦しめられながらも8-8まで均衡を保ったが、最後はリターンエースを決められて惜敗した。

勝負がかかったダブルスには今季加入したビツウンテアン零朗と三井駿介が登場。杉山記一監督は今季のチームは、「ダブルスにかかっても、安心して見ていられる」と、好成績の要因にダブルスを挙げるほど信頼している。2人ともアメリカの大学を出ておりダブルスがうまく勢いもあった。しかし、相手は強敵で、日本代表でビッグサーバーの柚木武とボレーがうまい松田康希だ。ビツウンテアンは「最初、ラケットにボールを当てるのも難しく、当たってもクロスとダウンザラインを狙うのが難しかった」とリターンに苦戦して第1セットを奪われる。徐々にサービスに対応できるようになり、第2セットはタイブレークに持ち込むものの、相手の好リターンに流れを奪われて勝ちにはつながらなかった。

アベック優勝は叶わなかったが、優勝にかなり近づくことはできた。2度目の優勝に向けて杉山監督は、「選手一人ひとりのパフォーマンス、ランキングを上げていかないといけない」と、次こそは頂点を狙う



3試合に勝利して役目を全うした福田創楽



シングルス1の大役を任せられたカズジツ サムレジ



ビツウンテアン零朗/三井駿介組は息の合ったプレーを見せた

男子決勝トーナメント



		橋本総業ホールディングス		男子結果	
準々決勝	橋本総業ホールディングス	2-1	三菱電機		
2月	S1 カズジツ サムレジ	4-6 6-7(5)	清水 悠太		
13日	S2 福田 創楽	6-1 6-3	高橋 悠介		
(金)	D ビツウンテアン 零朗/三井 駿介	7-6(6) 6-2	田中 優之介/大田 空		
準決勝	橋本総業ホールディングス	3-0	エキスパートパワーシズオカ		
14日	S1 カズジツ サムレジ	7-6(8) 6-3	吳 東霖		
(土)	S2 福田 創楽	6-4 1-6 10-5	熊坂 拓哉		
	D ビツウンテアン 零朗/三井 駿介	6-2 4-6 10-8	今井 慎太郎/末岡 大和		
決勝	橋本総業ホールディングス	1-2	イカイ		
15日	S1 カズジツ サムレジ	6-7(2) 6-4 8-10	ベイビツ スカエフ		
(日)	S2 福田 創楽	6-7(3) 7-6(6) 10-7	徳田 廉大		
	D ビツウンテアン 零朗/三井 駿介	2-6 6-7(1)	柚木 武/松田 康希		



働く内野手 BASEBALL KIICHIのコラム



橋本総業の岡山営業所に勤務している豊島輝一が、
幼少期から取り組んできた野球がどう仕事の現場で生かされているかをお伝える！

グラウンドの連係を営業の現場でも

橋本総業の岡山営業所にて営業職を務めている豊島輝一です。小学1年生からソフトボールを始め、中学から硬式野球に移り、野球の強い大学で4年間を過ごしました。大学で初めて地元を離れ、寮生活を経験したことは最大の転機になりました。一人っ子として甘えていた自分に、身の回りのことや上下関係など、野球以外の面でも多くの成長の機会を得られたと思います。

野球の魅力は、チーム力です。一人では勝てず、全員で補い合って勝利を目指すプロセスは、今の仕事にも共通しています。建築物件ごとに異なる取引先やメーカー担

当者とタッグを組んで提案を行います。時には同期のメーカー担当者と一緒にお客さまの元へ飛び込むことも。そんな時は、スポーツを通じて培ったコミュニケーション力が役立ちます。初対面の方とも打ち解けやすく、今の仕事に大きく生きていると感じます。人手不足で多忙な時期もありましたが、お客様からの「ありがとう」を励みに、業務と営業の両面で奮闘しています。

現在は地元のクラブチーム「レイカーズ」に所属し、軟式野球で国体や天皇杯を目指して活動中です。週1回の練習ながら、昨年は岡山県ベスト4という実績を残せました。岡山だけが市場ではなく、会

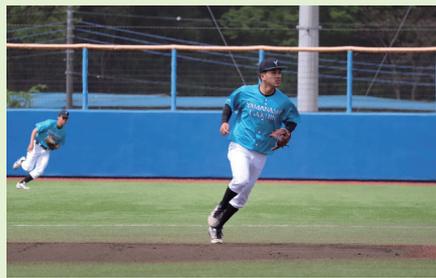
社には全国で活躍できる場があります。自分の限界を決めず、スポーツで学んだチームワーク力と粘り強さで、日本全国の実績に貢献していきたいです。

PROFILE

豊島 輝一

Kiichi Toyoshima

岡山県生まれ。幼少期から野球一筋で、高校・大学ともに高いレベルでプレー。大学卒業後、橋本総業へ入社。地元クラブチーム「レイカーズ」の内野手（セカンド、ファースト、サード）としても活動中。



仕事をしながら地元のクラブチーム「レイカーズ」でプレーしている

TOPICS

AI活用で営業の進化へ！

現在 HAT では、Google の AI (Gemini) を活用した「AI 日報」を導入中。豊島さんも「的確なレスポンスが返ってくる」とその精度を実感している。事務作業を AI で効率化し、その時間をより質の高い営業活動に充てることで、次世代の営業スタイルを確立することを目指している。



元プロ野球選手の 松本陽雅がコーチに就任！

元「火の国サラマンダーズ」の内野手として活躍した松本陽雅が、古巣の臨時コーチに就任することが決定した。2020年のチーム立ち上げから選手として全力で取り組み、「26歳までやり切る」という自らの約束を果たし、2023年にNPBへの挑戦に区切りをつけた。



2選手が現役引退を決意

今回の日本リーグを最後に引退を決めた大前綾希子。ダブルスで若手をリードし、最後となる3位決定戦を勝利で締めくくった。「30歳から契約してもらい感謝の気持ちでいっぱいです。自分の経験を若手に伝えることが使命だと思って行動してきました。少しでも恩返しができたらいいな」と感謝の気持ちを伝えた。3月31日での引退を決めたのは吉村大生。「プロになって5年。心の底からテニスと出会えてよかったと、言うことができるテニス選手生活でした」と振り返った。現役生活、お疲れ様でした！



日本リーグを最後に引退した大前綾希子（左）、吉村大生

T
O
P
I
C
S